

第 17 回年会報告

第 17 回年会報告

日本ケミカルバイオロジー学会第 17 回年会は、2023 年 5 月 29 日から 5 月 31 日の 3 日間、大阪大学会館にて開催されました。第 9 回年会以来 8 年ぶりの大阪での開催となりましたが、438 名の方々にご参加いただきましたことに厚く御礼申し上げます。ここ数年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けておりましたが、昨年度に引き続き対面形式で、かつ制限を緩和した形で開催することができました。懇親会の実施に関しても実行委員でギリギリまで検討しましたが、残念ながら本年度は見送ることとなりました。ただ、各々会場内外で活発な討論、交流が行われたことと存じます。ご協力いただきまして感謝申し上げます。

海外からの講演者の招待に関しても本年度は見送ることとしましたが、国内の 6 名の先生方から招待講演をいただきました。阪大からはオートファジーの分野で顕著な業績を挙げられている吉森保先生、温度生物学の分野を開拓している原田慶恵先生、新たな核酸医薬の創出にご尽力されている小比賀聡先生、阪大外からは長年にわたりケミカルバイオロジーの分野を牽引されている杉山弘先生、袖岡幹子先生、浜地格先生をご招待し、ご講演をお願いしました。また、本年会では口頭発表 54 題、ポスター発表 133 題の発表があり、多岐にわたる最新の成果が発表され、活発な討論が行われました。

<招待講演>

浜地 格 先生 (京都大学大学院工学研究科)

「ケミカルラベルで細胞、脳内を解析する分子技術」

吉森 保 先生 (大阪大学大学院生命機能研究科)

「オートファジー：疾患と老化に対抗する細胞の守護者」

杉山 弘 先生 (京都大学高等研究院物質—細胞統合システム拠点)

「核酸のケミカルバイオロジー」

袖岡 幹子 先生 (理化学研究所)

「生物活性分子のイメージングと標的同一化のための化学」

日本ケミカルバイオロジー学会 第17回年会 抄録集

会期：2023年5月29日(月)～31日(水)

会場：大阪大学会館(大阪大学豊中キャンパス)

小比賀 聡 先生（大阪大学大学院薬学研究科）

「アンチセンス核酸創出に向けた人工核酸の開発研究」

原田 慶恵 先生（大阪大学蛋白質研究所）

「神経分化における細胞内温度計測」

ポスター発表は2日間にわたり、計4つのセッションに分けて行いました。会場の都合上やや窮屈だったかもしれませんが、例年同様、学生、スタッフも入り交じって活発な議論が行われました。また、審査委員の先生方による厳正な審査の結果、以下の3名にポスター賞が授与されました。

<ポスター賞>（敬称略）

・上村 祐吾（東京大学大学院薬学研究科）

「人工的クロマチン液-液相分離による触媒的ヒストンアシル化反応の加速」

・奥村 薫里香（東北大学多元物質科学研究所）

「耐熱性放線菌 HN66 株が生産する熱ショック代謝物（HSM）の耐熱性促進活性評価」

・王 萌初（京都大学大学院工学研究科）

「リガンド指向性化学による脳内ミクログリアの選択的化学標識」

最後に本学会開催に際し、多くの関連企業、（公財）サントリー生命科学財団から協賛を賜りましたことに深く感謝いたします。また、現地開催に際し、学会関係者のみなさま、大阪大学のみなさまに重ねて厚くお礼を申し上げます。